

平成 30 年 11 月 26 日

総務民生常任委員 吉津 弘之

## 総務民生常任委員会行政視察報告書

下記の日程で行政視察を実施しましたので、別紙のとおり報告します。

### 記

#### 1. 視察期日及び視察先

平成 30 年 11 月 5 日（月）

愛知県東海市 「いきいき元気推進事業について」

11 月 6 日（火）

三重県津市 「ユニバーサルデザインのまちづくり」

11 月 7 日（水）

奈良県橿原市 「子ども総合支援センターの取り組みについて」

#### 2. 視察参加名簿

委員長 吉津 弘之

副委員長 江原 達也

委員 三輪 徹

委員 長尾 実

委員 岩藤 睦子

委員 橋本 憲治

委員 綾城 美佳

以上 7 名

#### 3. 視察報告・所感 別紙

(別紙)

視察先	愛知県東海市			
視察日時	平成30年11月5日(月) 14:00~16:00			
視察項目	いきいき元気推進事業			
対応部署名	東海市市民福祉部健康推進課			
自治体概要	面積	43.43 k m <sup>2</sup>	人口	114,511 人
			世帯数	49,991 世帯
視察内容				
<p>愛知県東海市では、「いきいき元気推進事業」についての視察を行いました。東海市は過去に行われた健康に関する調査において、平均寿命の順位が県内の自治体の中で低かったことや特定健診の受診率が低いという結果が出たことから、市として市民の健康づくりと生きがいくりの推進を掲げ、全庁的にこの事業をスタートさせました。重点的に行われた生活習慣病対策では、健康診断の結果と簡単な問診から個人にあった運動強度や食事量など、具体的な健康づくりの方法が記載された運動応援メニューと食生活応援メニューの作成を行っています。市内の公園などにあるウォーキングコースにはペース体感ゾーンが設置され、市民は運動応援メニューに記された自分に合ったペースでウォーキングをすることができます。また食生活ステーション、運動ステーション、メディカルステーションとして市内5施設、32店舗と医師会、歯科医師会、薬剤師会とが連携し、市民の健康づくりや健康意識の向上を推進しています。</p> <p>また、東海市は「カゴメ発祥の地」というまちの特性を生かし、平成26年4月、カゴメ株式会社と連携して、トマトを通して市民一人ひとりの健康づくり及び地域の活性化を目的に「トマト de 健康まちづくり協定」を締結し、トマト de 健康プロジェクト事業がスタートしました。この事業では毎月10日をトマトの日と定めて小中学校の給食にトマト料理を提供したり、食事の前にはトマトジュースによる乾杯を奨励したりと、トマトを通じた健康づくりと地域の活性化を図っています。</p> <p>これらの取り組みの効果として平均寿命の順位の向上が見られたほか、飲食店や運動施設、医師会、歯科医師会、薬剤師会などとの連携がうまく図られていることや、問題の特定、原因分析がしっかりと行われていることから、市民の健康意識の向上につながっていると感じました。本市においても医療費の削減や連携の面において参考になる事業でした。</p>				

(別紙)

視察先	三重県津市			
視察日時	平成 30 年 11 月 6 日 (火) 13 : 30 ~ 15 : 30			
視察項目	ユニバーサルデザインのまちづくりについて			
対応部署名	津市政策財務部政策課			
自治体概要	面 積	711.19 km <sup>2</sup>	人 口	279,857 人
			世 帯 数	124,895 世帯
視察内容				
<p>三重県津市では「ユニバーサルデザインのまちづくり」について視察を行いました。ユニバーサルデザインとは、初めからできる限り多くの人を使いやすいデザインを考え、バリアを作らない社会を目指すものです。津市では、年齢や性別、文化、身体状況などに関わらず、誰もが暮らしやすい社会を実現するためにユニバーサルデザインの観点は必要不可欠なものと考え、平成 20 年 3 月に策定した総合計画にユニバーサルデザインのまちづくりの推進を掲げました。市内でユニバーサルデザインのまちづくりを目的に活動する 6 団体と連携を深め、行政等の関係機関との協働によるユニバーサルデザインの普及啓発を推進することを目的に連絡協議会を発足し、市内小中学校等で開催されるユニバーサルデザイン講座への講師の派遣、ユニバーサルデザイン発表会開催、津市職員に対するユニバーサルデザイン研修への協力、各地域のイベントにおける啓発活動及び新たな活動団体の発掘等を行っています。ユニバーサルデザイン講座を実施した学校や団体からは来年度もお願いしたいなど好意的な意見がほとんどで毎年度受講している団体も多いなど着実に意識醸成が図られていました。一方、学校ではカリキュラムの変更に伴い、講座に係る授業時間の確保が困難なことや、各団体において高齢化が進んでおり後継者不足などの課題があるとのことでした。</p> <p>ユニバーサルデザインというとハード面のイメージが強く、財政的な部分考えると難しい事業という先入観がありましたが、身近なユニバーサルデザイン、ちょっとした心遣いや手伝いなど私たちでもできるソフト面のユニバーサルデザインが多くあると感じました。本市においても市民誰もが幸せに暮らしやすい社会の実現が求められています。今後積極的に取り組んでいかなければならない事業だと感じました。</p>				

(別紙)

視察先	奈良県橿原市			
視察日時	平成30年11月7日(水) 10:00~11:30			
視察項目	子ども総合支援センターの取り組みについて			
対応部署名	橿原市教育委員会事務局、橿原市子ども総合支援センターこども発達支援課			
自治体概要	面積	39.56 km <sup>2</sup>	人口	122,723人
			世帯数	53,052世帯
視察内容				
<p>奈良県<sup>かしはら</sup>橿原市では、「子ども総合支援センターの取り組み」について視察を行いました。橿原市子ども総合支援センターは、発達障害等を有する子ども及びその家族に対し、その子どもの成長段階に対する一貫した教育的、福祉的及び医学的支援を行うことを目的とし、平成26年4月に開設されました。昭和50年に「心身障害児訓練施設かしの木園」を開設し、支援を要する子どもたちへの療育を重ねてきたことから、その専門性を支えとして平成20年度には、厚生労働省の発達障害者支援体制整備事業、文部科学省の特別支援教育体制推進事業の指定を受け、保健・福祉・医療・教育等の関係機関が効果的に連携するための取り組みが進められてきました。開設以来、教育支援課と子ども療育課の二課体制で運営されていましたが、平成30年4月からは子ども発達支援課の一課体制での運営となり、この機構改革によってセンター内でも、教育・療育・相談の更なる効果的な連携が行えるようになりました。奈良県立医科大学と相談等での連携も図られ、幼児療育教室、ふれあい教室、ぐんぐん教室等関係機関と連携し、子どもの育ちの環境を整えています。ここには保育士・臨床心理士・言語聴覚士・作業療法士・理学療法士など多様な専門職を配置しており、コミュニケーションや認知的な面など多岐にわたる療育や遊びを通じて、充実感や達成感、感情体験を共有して発達が促進されるような土台を作る療育がされています。</p> <p>本市においても障害が認められる子どもたちの自立や社会参加に向けた指導・支援の必要性は高まってきていることから、今後の取り組みの参考となる事業でした。</p>				